

輝くアグリウーマン育成事業費

事業評価個票 (事業実施:平成30年度)				部局名	農林水産部			
短期アクションプラン	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業						
	施策	施策1 多様な人材が活躍できる農業経営の実現						
	目的	農業分野で活躍する若い女性農業者を育成・確保する。女性農業者が活躍しやすい環境を整備する。						
	目標指標 (R2)	女性農業士数	平成32年度 60名					
	策定時の実績	34名	現状	52名	主要事業 地域農業を支える多様な人材の育成・確保			
事業名	輝くアグリウーマン育成事業費		担当課・担当	農業技術環境課 技術普及・経営担当				
事業開始年度	平成28年度		事業終了(予定)年度	令和2年度				
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	女性が参画する農業経営体ほど売上が大きい傾向にあるなど、女性農業者は重要な担い手であるが、40歳未満は約2%と少ない。そこで、意欲的に経営に参画し、自らの創意工夫で経営を切り開く若い女性農業者の人材確保・育成を図る。また、女性農業者が活躍しやすい環境の整備を進め、孤立しがちな女性農業者のネットワークづくりを支援する。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	概ね40歳未満で、農業経営に携わり経営発展を目指す女性農業者を対象にした研修講座(アグリウーマン塾)を開催し、ビジネスプランを作成するなど経営力を備えた将来の地域農業をリードする若い女性農業者を育成する。また、女性農業者のためのワンストップ相談窓口を開設するとともに、地域毎の事例発表会や県全体での全国事例の講演会等を開催し、女性農業者のネットワークづくりを支援する。将来の職業を考えるキャリア教育が実施される中学2年生に生き活きと活躍する青年農業者の姿や農業の魅力を発信する「中学生のための農業ガイドブック」を作成する。さらに、青年農業者ネットワーク組織の活動を支援する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:事業実施の効率化・有効化のため							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	アグリウーマン塾の実施	1,710	1,695					
	中学生のための農業ガイドブックの配付	1,400	566					
	県青年農業士ネットワーク組織の活動支援	210	210					
	女性農業者のためのワンストップ相談窓口の設置	2,618	2,977					
	計	5,938	5,448	0	0	0		
	財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	2,904	2,665				
	繰入金							
	その他特定財源							
	一般財源	3,034	2,783					
	計	5,938	5,448	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	アグリウーマン塾の開催:5回 地域学習会の開催:4回 地域の研修会の開催:1回 計 10回	活動実績	回	10	10			
		当初見込み	回	10	10	10	10	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	女性農業士数	成果実績	人	49	52			
		目標値	人	45	50	55	60	
		達成度	%	109%	104%			
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

山形県農業士制度は、地域農業の振興と青年農業者の育成を図る活動を実践する農業者を、市町村長が推薦し、知事が認定する制度で、昭和52年から実施されている。アグリウーマン塾の修了生を農業士に誘導する等、地域のリーダーとして活躍する女性農業士数を目標値に設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<p>・女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)が平成27年8月に制定され、国及び県としても女性の活躍促進に取り組んでおり、農業分野においても、積極的に推進していく事業である。</p> <p>・特に、農村地域は男性社会が根付いており、高めの目標値を設定しているが、今年度は達成した。</p> <p>・中学生のための農業ガイドブックは県内の中学生全員に配布した。また、県の農業情報サイト「やまがたアグリネット」にも掲載し、広く情報発信している。</p>
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	<p>・計画どおりに地域学習会、県域研修会の実施、ネットワークづくりの支援等を行い、アグリウーマン塾では14名を修了まで導くことができた。</p> <p>・業務実施に必要な不可欠な経費のみ支出している。</p> <p>・事業実施にあたっては効果的な手段・方法等を検討し、低コストに努めた。</p> <p>・本事業は、農業者の中でも女性農業者の育成支援に特化した事業内容であり、他部局等の事業とは役割分担が行われている。</p>
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
の役割 妥当性 性担	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	女性農業者の育成支援にあたり、地域による機会の差が生じないよう県が行う必要がある。
今 改後 善の 点課 等題 ・	引き続き、将来の地域農業のリーダーとなる経営力を備えた若い女性農業者の確保・育成を実施していく。女性農業者の緩やかなネットワークづくりを推進していく。		

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。

B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。

C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない